

出雲市グリーンなぶどう体系協が速報

ヒートポンプでCO₂とコスト削減

持続可能な栽培へ4割減実証

島根県東部農林水産振興センター出雲事務所は、出雲市グリーンなぶどう栽培体系実証協議会が取り組む、ヒートポンプ導入で二酸化炭素(CO₂)とコストを削減する実証の速報で、加温開始から3月下旬までの加温コストが約4割減ったと明らかにした。持続可能な栽培システムへの転換に向けて、実証を続ける。

となった。加温コストやCO₂削減、労働時間、果実品質まで評価し、しっかり実証結果を分析したい」と意気込んでいる。

同市大社町に隣り合わせ、ウズを比較する。増える電気代を1キロワット15円に換算した加温コストの金額は、約4割減の約22万円となった。同センターの担当者は「メーカー資料の約3割ずもアグリ開発で構成する。同協議会は出雲市、同センター出雲事務所、JAしまね出雲地区本部、JAしまね出雲ぶどう部会と実証農業者のJAいづもアグリ開発で構成する。

同市大社町に隣り合わせ、ウズを比較する。1月中旬に2棟同時に加温を開始したところ、実証ハウスの重油使用量は慣行区の約6割減の約1900リットルだった。重油1リットルの単価を100円とすると、興味深い中間データ

(島根)